

2025 年度 広島大学大学院先進理工系科学研究科・工学研究科 海外インターンシップ教育事業  
海外共同研究（4D 型教育プログラム） 募集要項

## 1. 事業の概要

### (1) 海外インターンシップ教育事業について

言語・文化・慣習等の壁を超えて日本と海外の長所を融合し、グローバル化時代の新たな問題を解決することのできる国際技術者の育成を目的とした教育事業で、2001 年度より開始した「ECBO プログラム」と、2006 年度より開始した「海外共同研究」の 2 つから構成されます。

#### 【ECBO プログラム】

毎年約 10 名の大学院生を、海外に進出している日系企業へ 2 週間～4 週間程度の期間派遣し、インターンシップを実施します。

#### 【海外共同研究】

毎年約 10 名の大学院生を、広島大学海外交流協定校へ 2 週間～4 週間程度の期間派遣し、共同研究を実施します。

派遣された学生に対しては、博士課程前期は「海外学術活動演習 B」（2 単位）、博士課程後期は「自然科学系長期インターンシップ」等（2 単位）の単位認定を行います。

両プログラムとも、現地研修だけでなく、事前研修（英語学習・事例研究）と事後研修（技術移転演習）を組み合わせ実施します。

ホームページ：<https://www.hiroshima-u.ac.jp/eng/international/Internship>

### (2) 海外共同研究の目的

国際化の促進並びに国際感覚を持った優秀な学生の育成のため、学生を海外の交流協定校に派遣します。「海外共同研究」に参加することにより、国際環境の中で自己のテーマをさらに広く高い視野から見つめると同時に、相手校との共同研究を実施し自信を深め、グローバルな環境の中で研究のあり方を習得する機会とします。

学生の研修経験をより実効性の高いものとするため、派遣前に英語によるコミュニケーション力向上のための特別指導などにより十分な事前研修を実施します。

現地研修終了後は、現地で得られた成果を踏まえて研究を継続します。

## 2. 応募資格

以下のすべてに該当する者を応募の対象とします。

- ① 先進理工系科学研究科・工学研究科の大学院生であること。
- ② 人格に優れ、心身ともに健全であること。
- ③ 現地研修を遂行するうえで必要な英語能力を有していること。
- ④ 派遣先研究機関の受入要件を満たすこと。

#### 【注意点】

- 外国人留学生の場合は、事前に指導教員を通じてプログラム担当教員に相談してください。
- 「国籍を有する国（母国）への派遣」、「日本国政府国費留学生の派遣」に対しては、本プログラムからの経済的支援（派遣費用補助）は行いません。

## 3. 派遣先ならびに派遣予定人数

以下の海外交流協定校等へ学生を派遣することを予定しています。

派遣先の現地研修テーマについては、担当教員と応募前に相談しておくこと。

【研修テーマと派遣人数】

派遣先 海外交流協定校	現地研修テーマ	担当教員 (所属プログラム)
インド工科大学ボンベイ校 (インド)	① オープンソースコードを用いた過時効マルエージング鋼の微視変形機構の運動解析的研究 ② 過時効マルエージング鋼の衝撃試験と微視組織観察による変形機構の解明	岩本 剛 (機械工学)
チュロンコン大学 (タイ)	タイのバイオマスの有効利用に関する研究	松村 幸彦 (機械工学)
ボゴール農科大学 (インドネシア)	インドネシアのバイオマスの有効利用に関する研究	松村 幸彦 (機械工学)
ペトロナス工科大学 (マレーシア)	マレーシアのバイオマスの有効利用に関する研究	松村 幸彦 (機械工学)
アルバータ大学 (カナダ)	レーザ肉盛技術開発	山本 元道 (機械工学)
ウォータールー大学 (カナダ)	溶接高温割れ感受性と組織解析	山本 元道 (機械工学)
ケベック大学高等工科大学 (ETS) (カナダ)	レーザ異材接合界面解析	山本 元道 (機械工学)
マヒドン大学 (タイ)	高品質・高能率アルミニウム合金溶接技術開発	山本 元道 (機械工学)
ラジャマンガラ大学 (タイ)	溶接割れ感受性評価技術開発	山本 元道 (機械工学)
タイ国立科学技術開発庁 (NSTDA)・タイ国立金属材料技術研究センター (MTEC) (タイ)	溶接モニタリングシステム開発	山本 元道 (機械工学)
韓国建設技術研究院 (韓国)	可燃性粉体の燃焼特性の解明	KIM WOOKYUNG (機械工学)
フランス国立科学研究センター (フランス)	鉄粉体の火炎伝播特性に関する研究	KIM WOOKYUNG (機械工学)
ホーチミン市工科大学 (ベトナム)	地中構造物の静的・動的相互作用に関する研究	木戸 隆之祐 (社会基盤環境工学)
東南大学 (中国)	増粘剤を併用した 1 shot 型微生物固化技術に関する検討	島 俊郎 (社会基盤環境工学)
延世大学校 (韓国)	微生物機能による CCS 促進技術に関する検討	島 俊郎 (社会基盤環境工学)
スラバヤ工科大学 (インドネシア)	① Enhancing sedimental microbial fuel cells using steel slag ② Monitoring for quality of water in tidal flat using electrode	日比野 忠史 (社会基盤環境工学)
釜慶大学校 (韓国)	海象データの採取及び物理シミュレーションや AI による分析	日比野 忠史 (社会基盤環境工学)
マンチェスター大学 (英国)	浮体式海洋エネルギー発電に関する研究	陸田 秀実 (輸送・環境システム)
ダラム大学 (英国)	土砂洪水氾濫シミュレータの開発・混合粒径土砂移動機構の解明	井上 卓也 (社会基盤環境工学)

※ 派遣予定人数：21 人

#### 4. 研修内容について

海外交流協定校等で、一定の責任をもちつつ、共同研究を遂行する。  
共同研究の内容は、派遣先の教員・指導教員との事前相談を行ったうえで定める。研修生は、事前・事後研修を受け、スムーズなプログラム遂行を図るとともに、成果をより確実なものとする。

区分	課題内容
事前研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムの趣旨理解と準備教育</li> <li>・国際環境，研修実施国の国情，経済，市民生活などに関する一般的学習</li> <li>・共同研究遂行のための事前準備（派遣先の教員・指導教員との事前相談等）</li> <li>・研究科共通科目「技術移転論」の受講（必修）</li> <li>・研究科共通科目の「MOT とベンチャービジネス論」の受講（要望）</li> <li>・「e-learning Newton TLT（完全習熟トレーニング専用プログラム）」による英語学習（必修）但し，TOEIC 730 点以上は免除。</li> <li>・「海外渡航リスク管理セミナー」（オンデマンド）の受講（必修）</li> <li>・「派遣前最終報告会」での発表（必修）</li> <li>・その他，必要に応じて求められた課題等</li> </ul>
現地研修	<p><b>【現地研修の内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先の教員・指導教員との事前相談において決定した研究計画に基づき，共同研究を遂行する。</li> <li>・現地研修の成果は，中間・最終発表を通じて，派遣先の教員・指導教員の前で報告を行う。</li> </ul> <p><b>【研修期間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年 8 月下旬から 9 月下旬までの間で 2 週間（14 日）以上。ただし，研修先の都合により変更になることもある。</li> </ul>
事後研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「帰国報告書」（帰国後 1 週間以内）の提出（必修）</li> <li>・「最終報告書」（帰国後 1 か月以内）の作成・提出（必修）</li> <li>・現地研修の成果を踏まえた研究の継続</li> <li>・研究科共通科目「技術移転演習」の受講（必修）</li> <li>・現地研修後に受験した TOEIC®スコア等の提出（必修） 原則 11 月実施の学内 TOEIC IP テストを受験すること。 スコア提出締切：2026 年 3 月 6 日（金）</li> <li>・「最終報告会」での発表（必修）</li> <li>・その他，必要に応じて求められた課題等</li> </ul>

※ 研修課題については、授業等の開講状況により変更となる場合があります。

※ 海外学術活動演習 B の単位申請可

#### 5. 応募手続について

##### (1) 応募申請書類受付期間

2025 年 4 月 4 日（金）から 2025 年 4 月 15 日（火）まで

##### (2) 応募書類提出方法

以下 Microsoft Forms に応募書類をアップロード

<https://forms.office.com/r/j2jehqf1AJ>



- 一度アップロードしたファイルを更新する場合は、ファイル名を更新したことがわかるように変更して、再度アップロードしてください。
- 最後にアップロードされたファイルを審査に使用します。
- 応募締切後に、支援室から申請者の広大メールアドレスあてに申請完了通知メールをお送りします。
- 応募締切日から 3 営業日以内に申請完了通知が届かない場合は、工学系総括支援室(国際事業担当)あてお問い合わせください。

### (3) 応募書類等

① 応募申請書（所定様式）	ファイル名は「氏名 応募申請書」 ワードファイルで提出。
② TOEIC®スコア証明書 （写し）	ファイル名は「氏名 TOEIC」 最新の TOEIC®スコア（学部 3 年次以降に取得したスコア証明書）の PDF 又は画像ファイルを提出。 ※ 最終選考までに TOEIC®550 点以上を取得することを合格の条件とします。
③ 週間スケジュール（所定様式）	ファイル名は「氏名 週間スケジュール」 ワードファイルで提出。

## 6. 派遣学生選考方法について

派遣学生の選考は、第 1 次選考と最終選考に分けて実施します。

### (1) 第 1 次選考

応募学生全員に対し、書類審査（志望理由書）を実施し、採点結果に基づき選考します。

第 1 次選考結果通知日：2025 年 5 月上旬頃

※応募学生全員に対し、メールにて通知します。

### (2) 最終選考

第 1 次選考の合格者に対して実施する「個人面接」と「英語プレゼンテーション」の採点結果に加えて、書類審査（志望理由）の採点結果、TOEIC®スコア（550 点以上を合格の条件とします）ならびに事前研修の取組状況を考慮して、総合的に選考します。

試験実施日時ならびに試験内容：

日時	試験内容
5 月中～下旬 （日時未定）	個人面接： 志望動機、派遣に対する意欲、派遣に向けての準備状況等に関する試問を行います。
	英語プレゼンテーション： 英語によるプレゼンテーションならびに質疑応答を行います。 プレゼンテーションの内容については、別途お知らせします。

### (3) 最終選考結果通知

2025 年 6 月上旬に最終選考受験学生全員に対し、メールにて通知します。

## 7. 2025 年度 説明会・選考会等実施スケジュール

日時	項目
4 月 3 日（木） 16：00～17：00 @工学部小会議室 及び Teams	応募希望者向け説明会：主に以下の説明を行います。 ・プログラム概要 ・応募の注意事項の説明を行います。 （Teams のリンクはもみじ掲示参照）
4 月 4 日（金）～ 4 月 15 日（火）	応募受付期間
4 月 17 日（木） 16：20～17：00 @工学部小会議室	応募学生対象説明会：主に以下の説明を行います。 ・最終選考（個人面接・英語プレゼンテーション） ・事前研修（英語 e-learning 等）の受講
5 月上旬	第 1 次選考結果通知
5 月中～下旬	最終選考会（個人面接、英語プレゼンテーション）
6 月上旬（予定）	最終選考結果通知
6 月中旬（予定）	派遣説明会：最終選考合格者を対象に主に以下の説明を行います。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣にあたっての各種注意事項</li> <li>・海外旅行保険への加入</li> <li>・派遣前最終報告会</li> </ul>
6月中旬以降	海外渡航リスク管理セミナー： オンデマンドにより各自受講
7月上旬（予定）	派遣前最終報告会（第一部） ※派遣開始時期が早い学生を対象。
7月下旬（予定）	派遣前最終報告会（第二部）
8月～9月（予定）	現地研修（2週間～1ヶ月程度）
10月～	事後研修開始
12月下旬（予定）	最終報告会

※日程等については、都合により変更となる場合があります。

## 8. リスク管理（傷害保険への加入等）について

応募学生には不測の事態に備え、本学が包括協定を結んでいる東京海上日動火災保険(株)の海外旅行保険への加入を義務づけます。

上記に加えて、海外でも利用可能な携帯電話の持参を義務づけます。

## 9. 経費負担

学生派遣に必要な経費（国内交通費・国際航空運賃・ビザ代・宿泊費・海外旅行保険代等）については、5万円を学生の自己負担とし、残りについては本教育事業（または受入れ機関）が15万円を上限として負担します。学生の自己負担金額及び本教育事業の負担金額の合計が20万円を超過した場合は学生本人の自己負担か研究室の負担となります。

また、本プログラムからの派遣費用補助は「最大35日」までとし、派遣期間が35日を超える場合の宿泊費・現地交通費は、本人または研究室の負担となります。

ただし、外国人留学生による「国籍を有する国(母国)への派遣」、「日本国費留学生の派遣」については、派遣費用は全額を本人または研究室の負担となります。

派遣に必要な経費は先立って支払う必要があります（派遣終了後に支給します）。

なお、現地研修中にかかる食費、交通費などの費用、海外でも利用可能な携帯電話の費用等は自己負担とします。

## 10. その他注意事項

- 派遣先の諸規則、及び受入れ担当者の指示・命令を遵守すること。
- 派遣先の担当者が、正当な理由から研修を続けることができないと判断した場合には、広島大学の担当教員と協議のうえ、研修の中止ならびに途中帰国を指示することがある。
- 現地の治安情勢及び新型コロナウイルス感染症等の状況に十分注意し、責任ある行動を取ること。
- 派遣国・地域等の治安及び感染症の状況等により、派遣先における安全が確保できないと判断した場合には、派遣の中止あるいは途中帰国を指示することがある。
- 本プログラムに関する連絡には広大メール（～@hiroshima-u.ac.jp）を使用しますので、常に広大メールを確認・使用できるようにしておいてください。

## 11. 問い合わせ先

広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授 陸田 秀実

Tel: 082-424-7778

E-mail: mutsuda@hiroshima-u.ac.jp

広島大学工学系総括支援室（国際事業担当）

〒739-8527 広島県東広島市鏡山一丁目4-1

Tel: 082-424-4361, 7503

E-mail: kou-gaku-daigakuin@office.hiroshima-u.ac.jp